

# Museum Road "Re:Connect"

—道がさらにつながり、人がめぐりあい、まちが育まれる—

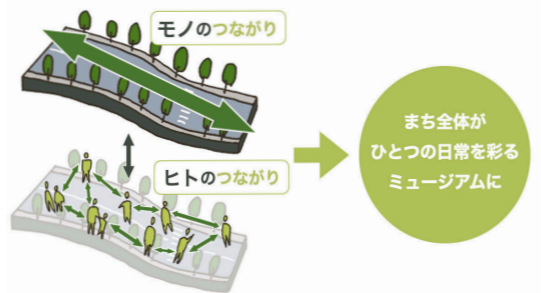
灘区周辺では、六甲の自然と海を背景に、芸術・文化・教育・スポーツが交差する**灘文化軸**を形成してきました。その中でミュージアムロードは、その中心に位置し、美術館や動物園などの多様な文化拠点を結ぶ文化回廊として地域の顔を担ってきました。そして近年、王子公園再整備や大学誘致、灘駅前広場再整備など、新たな都市更新が進むなかで、ミュージアムロード周辺では「学術・文化拠点としての再生」と「市民が主役となるまちづくり」が重視されています。

本提案は、そのビジョンに呼応し、ミュージアムロードとその周辺空間の再編と人の関係性の再生を同時に進めることで、山と海をむすび、人と文化が響き合う**日常のミュージアム**を創り出すことを目指します。

## 1 ミュージアムロードを通した「つながり」のリデザインによるまちづくり

コンセプト

本提案において掲げるキーワードは、**2つのつながり**です。  
ひとつは、美術館やアート、歴史資源などを有機的に結び、回遊性と景観の連続性を高める**モノのつながり**。  
そして、地域に関わる人々、住民・来訪者・アーティスト・運営者が関わり合い、支え合う**ヒトのつながり**。  
これら2つのつながり、空間の再編と人の関係性の再生を同時に進めることで、道が文化を結び、人が文化を育て、日常と文化、通過と滞在が重なりあい、やがて**まち全体がひとつの日常を彩るミュージアム**として育まれていきます。



## 2 まちの魅力と資源

現状分析

- 文化・アート**  
50点以上のパブリックアートがまちなかに点在、**芸術的なまち並み**が形成  
美術館、文化、娯楽施設が点在しており、**文化的な回遊**を楽しめる
- 教育・生活環境**  
小学校・中学校・高校といった**教育施設**が非常に多く文教地区としての性質  
周囲には住宅が多く、遊歩道が整備されており、歩行環境が良好  
緑も豊かで**落ち着いた住環境**が形成  
JR・阪神・阪急の3線が徒歩圏にある**トリプルアクセス拠点**
- 歴史・背景**  
神戸臨港線跡や土木遺産にも認定されている高架橋が存在  
HAT神戸を中心とした**阪神・淡路大震災復興後の都市再生地域**
- 地域コミュニティ**  
灘文化センターや地域会館など、**地域コミュニティの拠点**が点在  
灘中央市場や水道筋商店街など、**生活に根ざした商業エリア**が近接

## まちの課題とポテンシャル

- 空間・アート・文化の連続性の欠如**  
**ミュージアムロードの回遊性**  
灘駅によってミュージアムロードが南北で分断、また複数の幹線道路によっても切断  
舗装・街灯・植栽が区間ごとに異なることで空間の質にばらつきがあり  
ミュージアムロードらしさの**連続表現**が薄い  
50点以上のパブリックアートがまちに点在しているが、点で終わっており**回遊性**に課題
- 周辺とのかかわり**  
王子公園および灘駅北口の再整備計画とミュージアムロードの連携、王子公園HAT神戸などの周辺エリアへ**文化的魅力**のしみ出し
- 地域関与の希薄化と担い手の不足**  
**地域住民の地域への関心・関与**  
特にHAT神戸ではつながりの希薄化、高齢化により**地域コミュニティの担い手**も減少  
まちに人がもっと関心を寄せ、関与していくことが今後の鍵

## 3 文化と自然を結ぶ道から、人とまちの未来を育てる都市

目指すまちの将来像

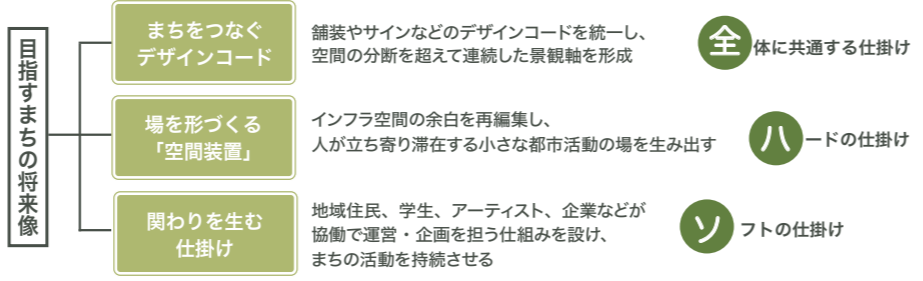
- ▶ミュージアムロードが導く、3つの未来**
- 都市空間の将来像**  
・山と海の風景がつながり、歴史・芸術・生活を結ぶ**オープンミュージアム**のようなまち  
・昼夜問わず滞在したくなる**回遊空間の実現**
- 人の将来像**  
・多様な人々が居場所と役割を持つ**コミュニティの形成**  
・市民が日常的に交わり、まちを舞台に**文化活動・創作・イベント**が展開されるまち
- 経済的将来像**  
・アートが融合した**観光・文化産業の育成**  
・神戸の**文化的中心**として、国内外から人が集う**ブランドの形成**

### ▶ミュージアムロードを用いて実現させる

## 4 3層構成のデザイン方針

提案の方向性

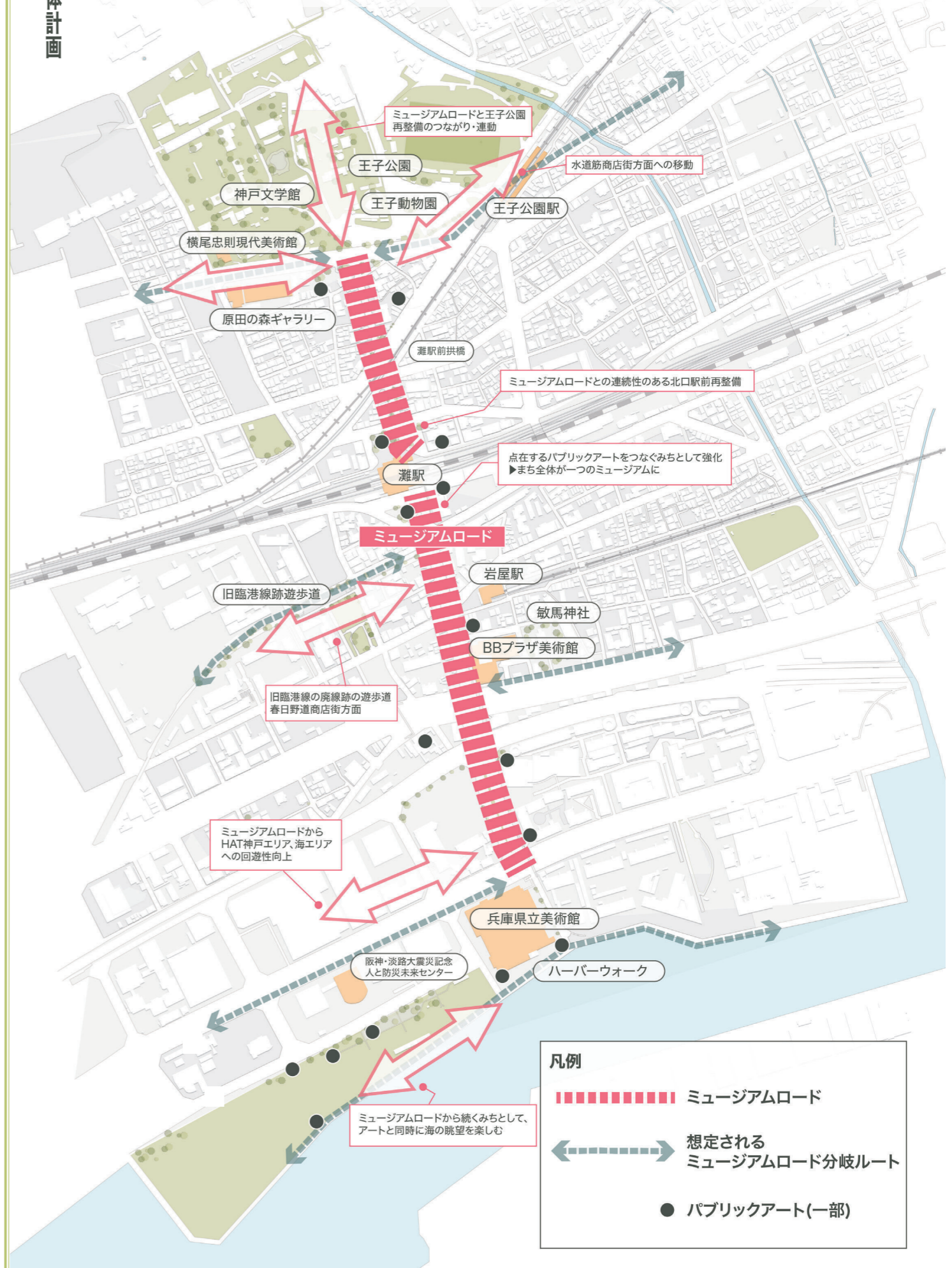
まちの将来像の実現に向け、ミュージアムロードをまちの軸としてより一層強化するため、**①全体に共通する仕掛け**、**②ハードの仕掛け**、**③ソフトの仕掛け**という3つの仕掛けを用いることでまちの**つながり**が体現されるデザインを行います。  
具体的な方針として、**大規模なハードの整備**ではなく、ベンチやアート、小さな滞留スポットといった「**小さなシカケ**」を通り沿いに数多く点在させます。  
ヒューマンスケールな要素が連続することで、ミュージアムロードを人々の**日常的なアクティビティ**を受け止めるウォークアブルな空間へとアップデートします。



## 5 全体計画

### 南北軸の強化とエリア全体の回遊性向上

王子公園から兵庫県立美術館・海辺へと至るミュージアムロードを、都市の南北を貫く**強力なシンボル軸**として再定義します。この軸線を起点として、東西の生活圏や地域資源へと人々を誘引する**分岐ルート**を設定。点在するパブリックアートや滞留空間を媒介に、**線的な移動を面的な賑わいへと転換**し、まち全体がひとつの美術館となるような**回遊ネットワーク**を構築します。



**凡例**

- ミュージアムロード
- ⇄ 想定されるミュージアムロード分岐ルート
- パブリックアート(一部)

# ミュージアムロードの回遊性を誘発するサインと路面の一体化、XR技術の導入

案内サイン・路面デザインの一貫性

### 現状と課題



現状としてミュージアムロード内の案内及び説明サインは統一感がなく老朽化が進んでいるものも見られるほか、どこにもパブリックアートがあるか分かりにくいという課題があります。



駅構内イメージ  
駅構内の通路にも共通のデザインを施すことでみちのつながりを保つ



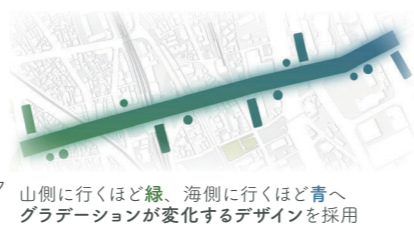
「山」側イメージ  
歩道には王子動物園に続く道として動物の足跡!

**提案1** ミュージアムロード及び周辺エリアに統一したデザインコードを導入します。ミュージアムロードは海と山を南北で結んでおり、神戸・灘の豊かな自然を色で表現するために、自然を感じられる2色のグラデーションを全体のデザインコードとして採用します。このデザインコードはサインと舗装に用いられミュージアムロード全体に統一感を与え、まちのつながりをより感じさせる仕掛けとなります。

### デザインコード

- Sea Blue
- Mountain Green

なだ 灘  
Font ヒラギノ角ゴシック



山側に行くほど緑、海側に行くほど青へグラデーションが変化するデザインを採用



案内サインデザイン原案  
サインの色も設置場所によってグラデーションも変化



「海」側イメージ及び案内サインイメージ  
サインにはマップや周辺施設案内に加え、周辺のパブリックアートや飲食店情報などが掲載

**提案2** 10~20年後には、XR（VR 仮想現実・AR 拡張現実・MR 複合現実といった、現実世界と仮想世界を融合させる技術）が大きく進化し、私たちの日常により密接に関わってくることが予測されます。そのような未来を見据え、XRをまちに組み込むことで、テクノロジーを活用した案内・説明サイン等の情報表示を導入し、ミュージアムロードにさらなる彩りを与えていきます。現状ではスマートフォンアプリを介した利用を前提としながら、将来的なウェアラブルデバイス等の新技術の普及を見据え、長期的に更新および発展可能な仕組みとしての提案となります。

### XRを用いたミュージアムロードの未来

**導く** AR案内サイン  
案内サイン・周辺施設・交通・アート・イベント情報をARを用いて表示。物理的なサインに比べてより柔軟な情報表示が可能

**彩る** パブリックアートのAR解説 & アーティストトーク  
作品にカメラをかざすと、解説文だけでなく、製作者本人が制作意図を語りかける

**繋ぐ** 動き出すAR限定コンテンツ  
静止しているアートが、画面越しでは動き出す。現実のアートにデジタルの演出を加えることで、未来につながる新しいアートを提供

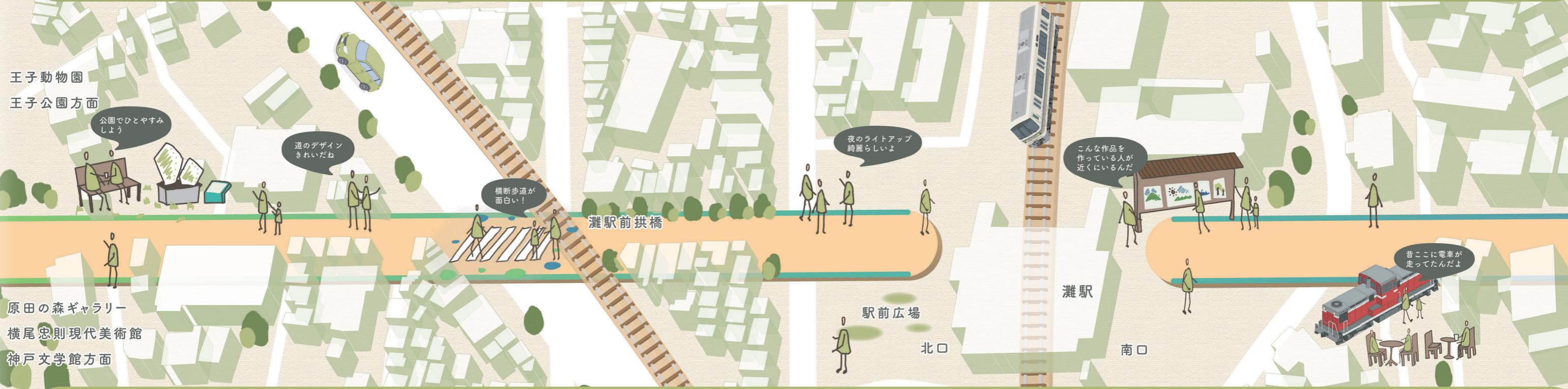
**繋ぐ** ミュージアム間のシームレスな鑑賞  
このシステムは路上だけでなく、沿線の美術館内でも共通して使用可能。館内のナビゲーションや作品解説も同一アプリで行い、まちと施設を繋ぎ目なくつなぐ

**繋ぐ** 臨港線と震災の歴史をアーカイブ  
かつて走っていた臨港線の列車が走る様子や、復興の過程を、現在の風景に重ね合わせ

**繋ぐ** 想いの可視化 Emotional Tag  
「このカフェが美味しかった」「ここから見る夕暮れが綺麗」といった来街者の口コミや想いを、フキダシのように空間に浮かべる



XRを用いたミュージアムロードの未来イメージ



## 北口広場は余白を残した憩いの空間に

ミュージアムロード

**提案** JR 灘駅北口再整備では、北口広場を王子公園・神戸文学館・美術館へと連なるミュージアムロード上の中間地点として、南口広場と共に位置づけます。現在の北口広場では、広い広場で世代や目的の異なる人々が、立ち止まり、語らい、遊び、通り過ぎるといった多様な行為が展開されている点が1つの魅力です。そのため北口は先のプロポーザル案に準拠しつつ、**使われ方を過度に規定せず、あえて余白を残した広場とし、円形劇場のような段状ベンチを配置**します。段状ベンチは日常には憩いと滞留を受け止め、イベント時にはミュージアムロード上で育まれる文化、創造性を表現するステージを囲む客席へと転換します。北口広場の再整備によってミュージアムロードの文化と創造性がより日常へと**滲み出す拠点**を形成することを目指します。



北口駅前広場 イメージパース ロマ劇場をモチーフにした段状ベンチ。普段は人々の憩いの場所として、イベント時には客席となる

**配置計画** 北口駅前広場では、現状の車両待機スペースを縮小し、広場空間を拡張します。これにより、北口からミュージアムロードへと至る歩行者動線が現状に比べて格段に明確となりミュージアムロードの連続性が強化されます。あわせて、広場として利用可能な余地が広がり、多様な使われ方を十分に受け止める空間になるほか、歩行者の道路横断箇所を7箇所から4箇所へ集約することで、歩行者の安全性の向上を図ります。



北口駅前広場 配置計画案 広場の拡張によってミュージアムロードへの歩行者導線が明確に

## ハ パブリックアート設置場所を活かす

ポケットパークの設置

**提案** ミュージアムロードには50箇所ものパブリックアートが点在していますが、現状は眺めて通り過ぎるだけの通過動線にとどまり、過ごすための滞留空間が欠如しています。そこで既存のアート設置場所にベンチ等のストリートファニチャーを併設し、**ポケットパーク**としての機能を付与します。来街者や地域住民が休息し、じっくりとアートと向き合える居場所へと転換することで小さな公園が点在するウォークアブルな回遊拠点をつくり出します。



イメージベース アートと共にほっと息つけるような小さな居場所を目指す

## ハ 新たなランドマークを

旧臨港線にゆかりのある車両を展示

**提案** ミュージアムロードに面する遊歩道は、旧神戸臨港線の廃線跡という歴史的文脈を持っています。その記憶を継承する遊歩道の入口広場に往年の車両を展示する計画を提案します。また、展示するだけでなく車内や車両を生かしたギャラリーやカフェスタンドにすることで、単なる歴史の保存ではなく、灘の歴史を後世に語り継ぐ記憶装置であると同時に、ミュージアムロードの新しい風景を創出するランドマークとなります。

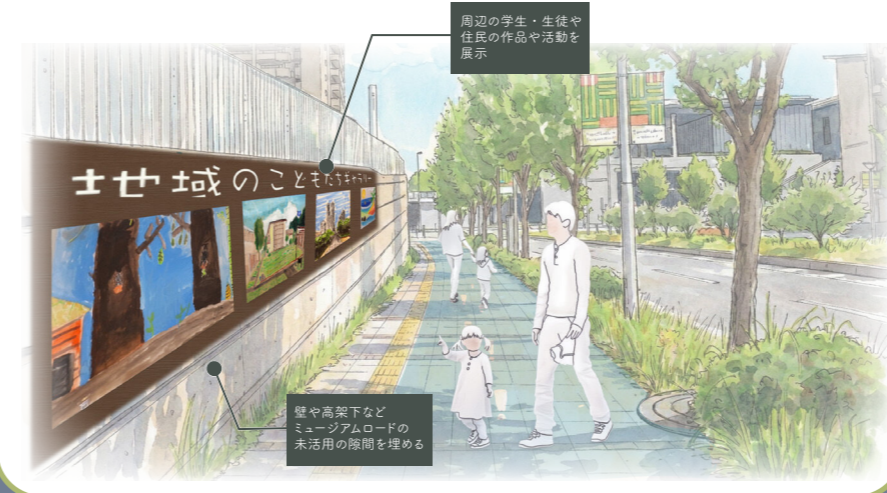


イメージベース 灘の新しいランドマークとしてカフェスタンドやギャラリーによる動態保存をしつつ、この土地の記憶を継承する

## ソ 地域住民と子供たちの表現の舞台「誰でもミュージアム」をつくる

住民・子ども達の作品展示

**提案** ミュージアムロード周辺には震災復興事業の象徴ともいえるHAT神戸の住宅エリアを含めた住宅街に加え、多くの教育施設が立地しており、大学誘致計画も進んでいます。そのような地域のポテンシャルを活かし、沿道の高架下や道路脇などの未活用空間のあちこちに住民や学生のための恒久的な作品・活動の展示スペースを創出します。パブリックアートに加え、**地域で日々生まれる表現がストリートを彩り**、定期的に作品が入れ替わることで、ミュージアムロードを歩く人が**地域を知り、鑑賞と交流が連続する歩いて楽しい空間**を実現します。

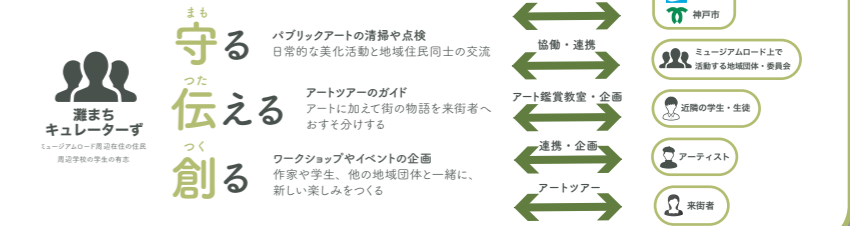


## ソ 見るだけのアートから、関わるアートへ。市民を中心にまちを守り育てる住民団体「灘まちキュレーターズ」の設立

**提案** ミュージアムロード上のパブリックアートを核に、住民が主体となってまちに関わる団体「灘まちキュレーターズ」を設立します。その役割は、**日常的な美化活動(守る)**、**ガイドツアーによる魅力発信(伝える)**、**そしてワークショップ等の企画(創る)**の3つです。イベントの時だけでなく、**日常のかつ継続的な住民同士の新たな交流機会を創出すること**に加えて、行政・学校・アーティストと連携しながら、住民自身がまちの価値を高めていくシビックプライドの醸成を目指します。

### ▶キュレーター (Curator) とは？

キュレーターとは、本来は博物館や美術館で作品を収集・研究し、守りながら、その魅力をお客さんに伝える専門家のことです。灘まちキュレーターズは、ミュージアムロード上のパブリックアートを中心に、まち全体を一つの大きな美術館と考え、そこに住む住民一人ひとりが、ただの通行人ではなく**日常的にキュレーターとしてまちに関わる**ことを目指します。



岩屋駅



BBプラザ美術館



道が光ってる! すごく綺麗!

このアートは...

兵庫県立美術館

## 全 神戸の新たなナイトスポットに

夜間ライトアップの導入

**提案** 昼間の太陽光を蓄え、夜になると自ら淡く発光する蓄光塗料と蓄光石をミュージアムロード全体の舗装材として採用します。蓄光材による足元から湧き上がる光、そして点在するパブリックアートにもライトアップを施すことで幻想的な景観を出現させます。また現在神戸市では、夜間景観と「あかり」を一つの重要な資源ととらえ、神戸らしい夜間景観にさらに磨きをかけて都市のブランド力を高めるため、「神戸市夜間景観形成実施計画」を定めています。灘周辺ではミュージアムロードを含めたHAT神戸エリアが対象エリアとなっていることから、市の計画にも即した**新たな神戸の魅力的なナイトスポット**を目指します。

### 夜のミュージアムロードで生まれる楽しみ

#### ▶ NADA・ナイトミュージアム

特定の週末に、美術館や動物園、周辺文化施設の開館時間を延長し、ミュージアムロード全体を舞台とした夜の文化体験を創出します。

そして路面やパブリックアートをライトアップを通してつなぎ、夜市のような出店や滞留空間を点在させることで、ミュージアムロード全体がナイトミュージアムへと変わります。

カップルや友人は夜の美術館やライトアップを巡り、家族連れはナイト動物園や出店を楽しむなど、多様な楽しみ方が共存する空間となります。神戸が大切にしている「あかり」を通して、灘に新たな賑わいが創出されます。



夜間ミュージアムロード イメージベース 足元には蓄光材が用いられており、夜間は日中と違ったミュージアムロードを楽しめるほか、夜間の歩行安全性向上にもつながる

## 全 インフラにもアートを

道路アートの導入

**提案** ミュージアムロード上の**インフラそのもの**をキャンバスとして、街全体でアートを感じられる空間を形成するために、特にミュージアムロード上で動線を分断している**横断歩道**または**歩道の信号待ちスペース**を彩るアートを導入します。無機質なアスファルトに驚きと発見を与え、歩行者の回遊性を高める空間へと転換させます。またアートを横断歩道周辺に戦略的に仕掛けた場合、自動車等に減速を促すことができるという調査があることから、交通安全機能をもつアートとして、灘のアートに**新たな側面**をもたらします。



道路アート イメージベース ミュージアムロードを分断する横断歩道とその周辺に様々なアートを取り入れることでまちがつながる